

TCHoU セミナー

2018年7月27日（金）13時45分～

自然系学系 B118

◎飯田佑輔 氏（関西学院大学）

「コンピュータによる画像認識手法から迫る太陽ダイナモ問題」

概要

太陽の大気活動は11年の周期性を持ち、このメカニズム解明を太陽ダイナモ問題と呼ぶ。これまでに、磁気流体力学理論と数値実験を中心として、磁束輸送ダイナモモデルが構築されてきた。一方で、実際の太陽を覆う、無数の微小磁気塊を解析する困難から、ダイナモ理論モデルの観測実証はほとんど行われていない。講演では、コンピュータによる画像認識手法を用いた実証結果を紹介する。

◎中野佑樹 氏（東京大学宇宙線研究所）

「Super-Kamiokande 検出器を用いた太陽ニュートリノ観測の現在と今後の展望」

概要

Super-Kamiokande (SK) は50 ktonの水チェレンコフ型検出器で、陽子崩壊探索や太陽・大気ニュートリノ観測、加速器実験(T2K)などを行っている。本講演では、太陽ニュートリノ観測に話題を絞り、これまでに得られた物理結果を簡単に紹介する。最後に、今後期待される物理に関する展望を紹介する。

